

暮らし

がん何でもQ&A

質問

海外勤務をしている35歳の長男が、昨年11月に一時帰国して受けた会社の健康診断で、胆嚢にポリープが3個見つかりました。本人にポリープの大きさなどは聞いていませんが、特に自覚症状はないそうです。ただ、体重が2年ほど前の58kgから64kgに増え、おなかも出てきました。身長は170cmです。単身の海外生活のため、食事は不規則で油物も多いようです。アルコールはほとんど飲みません。健康診断では様子を見て3~4カ月後を再検査をするよう言われたそうです。3~4カ月後で、手遅れになる心配はないでしょうか。がんとの関係や、原因、予防、治療法などについても教えてください。

答え

胆嚢は肝臓の下に張り付くように存在する、ナスに似た形の袋状の臓器です。肝臓でつくられた胆汁を濃縮して一時的に貯



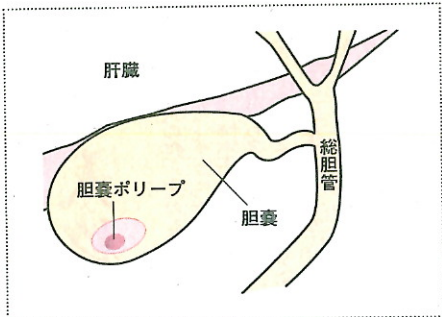
木村 哲夫

徳島大学病院
消化器内科助教

胆嚢にポリープ

超音波検査で経過観察を

正常な健康成人を対象とした健診の腹部超音波検査で、10~15%の人が胆嚢ポリープを指摘されると言われています。胆嚢ポリープにはさまざまな種類がありますが、健診で指摘されるものほとんどは、コレステロールポリープと呼ばれるものです。コレステロールポリープは、胆汁内で脂肪酸と結合したコレ



ステロール(コレステロールエステル)が胆嚢粘膜内に染み込み、沈着して隆起を形成するものです。典型例は、直径5mm以下で多発することが多く、腹部超音波検査を行うと顆球形で内部にぶつぶつとした高エコー(白く見える)成分を有するといった所見が見られます。単発で直径8mm以上のものや、形態がいびつであるなど、コレステロールポリープとして非典型的な所見がある場合は、

超音波内視鏡検査などの精密検査を行う必要があります。質問者の息子さんが指摘されたポリープの詳細までは確認できませんが、多発していることや、健診担当者や医師が精密検査を勧めたことなどを考えると、コレステロールポリープの可能性が高いと診断されても、腹部超音波検査による6カ月から1年の経過観察を行うことが基本です。

経過観察の結果、3mm以上の増大を認めた場合、また明らかに形態変化を伴った場合は、胆嚢がんの可能性も考え、手術をお勧めします。胆嚢の手術は、腹腔鏡下手術が広く行われており、腹部に1~2cmの小さな穴を4カ所ほど開けて、内視鏡や鉗子、超音波メスを挿入し、観察しながら手術を行うことができますので、体に対する負担も少なく済みます。

超音波内視鏡検査などの精密検査を行う必要があります。質問者の息子さんが指摘されたポリープの詳細までは確認できませんが、多発していることや、健診担当者や医師が精密検査を勧めたことなどを考えると、コレステロールポリープの可能性が高いと診断されても、腹部超音波検査による6カ月から1年の経過観察を行うことが基本です。